

(1) 高岡城築城

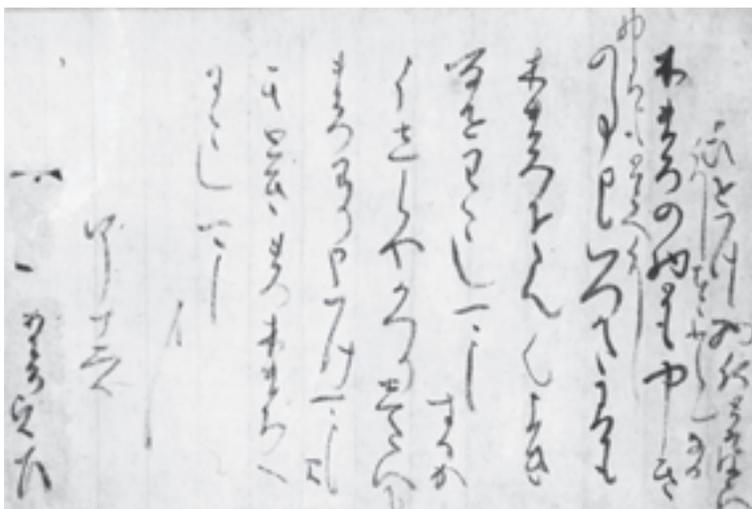
加賀前田家2代当主・前田利長は、慶長10年(1605)隠居して富山城にいましたが、同14年(1609)3月下旬の大火により城を失いました。利長はいったん魚津城へ避難し、4月6日付で駿府(静岡市)の大御所・徳川家康と、江戸の将軍・徳川秀忠から関野(高岡の旧名)での築城許可を得ました。関野は加賀藩領(現富山・石川県)のほぼ中心にあり、小矢部川や当時大河であった千保川がつくった広大な沼沢地でした。高岡城はその中に浮かぶ高岡台地(標高約15m)の北隅に築られました。

高岡城は高山石近が縄張(設計)したと伝わります。しかし、最近の研究では利長自らが縄張をした可能性が指摘されています。築城及び城下町造成に関する利長の書状が約30通も残っており、利長自らが積極的に指示したことが分かっています。そのほとんどが督促状であり、利長がいかに築城を急がせていたかがえます。

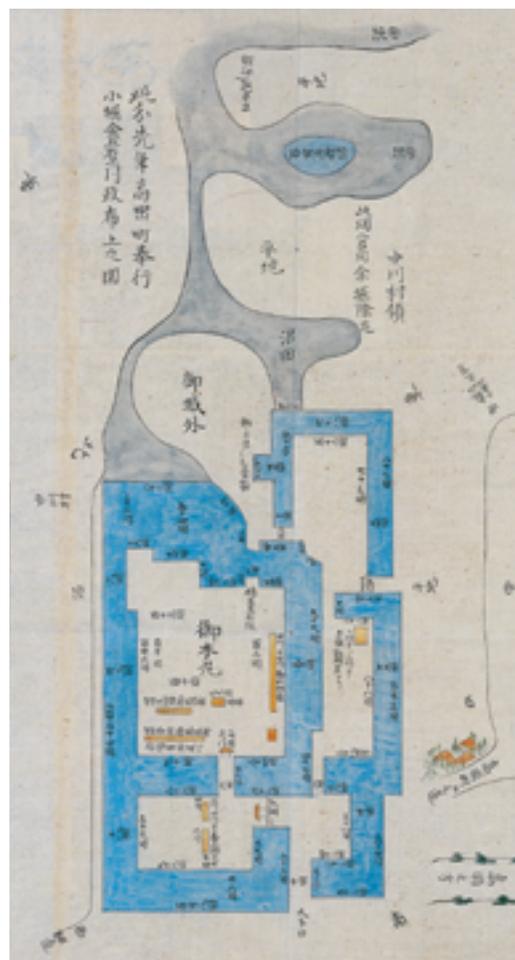
当時は未だ大坂に豊臣家があり、徳川家は完全に天下を統一したわけではありませんでした。利長は父利家の跡を受け豊臣家五老、及び豊臣秀頼の傅役でありながら、いち早く徳川家に味方しました。母芳春院(まつ)を江戸へ人質に出し、後継ぎの利常と家康の孫娘を結婚させ、加賀本藩は完全に徳川大名となりましたが、自らは一線を引いて微妙な立場を保持し続けました。そこで、自分の有力な拠点を早急に持つ必要があったのです。

高岡築城の経緯をみていきます。慶長14年4月中旬に高岡最初の町となる「木町」を小矢部川と千保川の合流地点に築いて物資の揚陸基地としました。また同時に城下町の建設も進めています。5月中旬には城の地鎮祭を行っておりこれ以降、普請(土木工事)が本格化したと思われます。領内から約1万人(推定)の人員を動員して突貫工事で進められ、9月初旬には仕上げの段階になったといえます。

そして慶長14年9月13日、利長は主立つ家臣434名を引き連れて入城を果たしました。しかし5日後に二の丸の門や櫓(2棟)の増築を命じており、また入城3年後にも書院廊下用の畳の調達を命じているなど、城はしばらく未完成であったと思われます。



「前田利長書状」慶長14年(1609)4月12日付(木町神社蔵、高岡市指定文化財)駿河(家康)よりの使者が帰り次第に最初に木町の町割を命じている。



「高岡城之図」(小堀図部分)江戸後期(金沢市立玉川図書館近世史料館蔵)



本丸礎石検出状況 平成23年
高岡市教育委員会提供



貫土橋(朝陽橋南橋詰)栗石検出状況 平成23年
高岡市教育委員会提供

(2) 高岡城の規模・構造

高岡城跡は測量調査によれば、長さ 648m、幅 416.5m の規模を持っています。面積は約 21.8 万 m² (東京ドームの約 4.5 倍) で、そのうち 37% が水堀で占められています。縄張形式は、本丸から二の丸、鍛冶丸、明丸、三の丸、現「梅林」、御城外 (現小竹藪) という 7 つの郭 (城内の区画) を土橋で繋げる「連続馬出」であり、非常に高い防御力をもっています。現在、その郭の形状や水堀のほぼ全てが残っており、高岡城は平成 18 年 2 月、県内で唯一「日本百名城」に認定され、また平成 27 年 3 月 10 日には国史跡に指定されました。

発掘調査により城域全体に手厚い地盤造成の痕跡や、本丸には幅 50m 以上の規模をもつ御殿の存在などが発見されました。各種史料から、本丸には材木蔵・番所・鷹部屋、「貫土橋」(車橋) や、二の丸に鈴木権之助屋敷と門と隅櫓 2 棟、三の丸には今枝民部直恒の屋敷があったことなどが記されています。

(3) 高岡城跡、3 度の危機

入城翌年に病を發した利長の容態は、徳川・豊臣の関係と同じく年々悪化しました。そして慶長 19 年 (1614) 5 月 20 日、利長は城内にて 53 歳で死去しました。同年冬の大坂冬の陣の際は稲垣与右衛門が、翌年の大坂夏の陣には、岡嶋一吉らが高岡城に配置されました。そして戦後、幕府により「一国一城の令」が發せられ、高岡城は廢城となつてしまいました。

しかし、利長の跡を受けた 3 代当主・前田利常は、高岡城の水堀を埋め立てませんでした。そして米や塩などの蔵を設置し、番人をおいて、一般の出入りを禁止しました。つまり利常は、城の実質的価値である壘 (郭) と堀を保存して、その潜在能力を保持したのです。

江戸時代はそのまま保存されましたが、明治初期に 2 度目の危機がありました。城跡が民間に払い下げられたのです。しかし、落札者は開墾などをしなかったといえます。これは町民の間で高まった城跡保存の世論によるものと思われまふ。築城以来 260 余年間、「古御城」と呼び誇りとしていた城跡が破壊され、失われるのを何とか防ごうとする町民の思いが察せられます。そして当時の第 17 大区区長の服部嘉十郎ら有志は県に城跡の公園指定請願書を提出、明治 8 年 (1875) 7 月 4 日、城跡は「高岡公園」として認定され、無事に保存されました。その時に奔走した鳥山敬二郎は大正期の市長時代に公園整備に尽力しました。

そして 3 度目の危機といえる昭和 30 ~ 40 年代の高度経済成長期には、全国の多くの城跡が「開発」という名で破壊が行われていますが、高岡市は城跡を保存しました。

高岡城は高岡の発祥を示す貴重な史跡で、高岡のアイデンティティーといえます。今後も我々は、利長・利常、そして高岡市民たちの長きにわたる思いを尊重し、守り伝えていかねばならないと思います。

高岡古城公園図

